前立腺の異常を発見する時に受ける検査

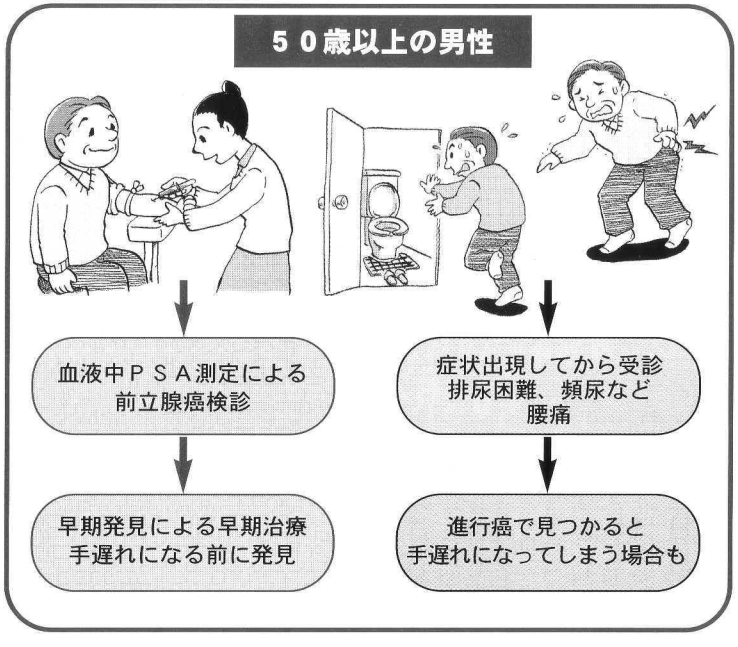
日本臨床検査専門医会
前川 真人

前立腺癌とは？

前立腺は男性にだけあり、精液の一部を作る栗の実のような形の臓器です。恥骨の裏側で直腸の隣にあり、膀胱の下で尿道を囲むように存在しています。前立腺癌は男性特有の癌で、加齢と共に多くなります。患者の九割は六〇歳以上ですので、五〇歳以上の男性には検診をお勧めします。昨今の高齢者社会や、脂肪の多い食生活の変化によって前立腺癌は増えています。

症状は？

一般に前立腺癌は早期には臨床症状を伴いません。前立腺癌の代表的な症状、排尿困難（おしっこが出にくい）、頻尿（おしっこの回数が多い）、残尿感（排尿後、尿が残った感じ）、夜間多尿などはむしろ並存する前立腺肥大症の症状であることが多いです。さらに前立腺癌が進行したら骨に転移して腰痛などが生じます。



診断

このように、早期では特有の自覚症状がなく、自覚症状出現後に外来で発見される前立腺癌は半数近くが骨などに転移した進行癌であることから、前立腺癌検診が重要です。

検診は、採血してＰＳＡ（前立腺特異抗原、ピーエスエー）を測定する検査法が進歩し普及してきました。国内でも市町村レベルでの検診への導入も増加してきています。ＰＳＡはとても敏感な腫瘍マーカーです。ただＰＳＡが異常であっても全てが癌ではありませんし、逆にＰＳＡが正常でも癌ではないとも言い切れません。ＰＳＡの基準範囲は4ng/ml以下ですが、4ng/ml以下でも前立腺癌が発見されることもあります。また、4～10ng/mlは正常とも異常ともいえないグレーゾーンで約三〇％に癌が発見されます。10ng/mlを超える場合には五〇％以上に癌が発見され、100ng/mlを超える場合には転移を伴う癌が疑われます。

日本泌尿器科学会が作成した前立腺癌診療ガイドラインでは、ＰＳＡが基準範囲（4ng/ml）以下であった場合、1.1ng/ml～4ng/mlでは年一回、1.0ng/ml以下では三年ごとに再検診を受けるよう推奨しています。

ＰＳＡ値に異常が認められたら

肛門から指を挿入して前立腺の状態を確認する直腸診、もしくは肛門から専用の超音波器具を挿入する経直腸的前立腺超音波を行います。また、超音波検査の際に経直腸的前立腺生検を行います。針を挿入し組織を採取し、顕微鏡で癌細胞の有無を確認します。癌が確認されると、他への転移の有無を骨シンチグラムやＣＴスキャン、リンパ管造影、超音波断層撮影などで検査します。

以上、前立腺癌で手遅れにならないためには、定期的な前立腺癌検診が勧められます。